

# 豊後高田の古墳めぐりの旅

真玉大塚古墳



穴瀬横穴群



雷鬼の岩屋古墳

表紙：豊後高田市内の古墳

## (1) 本日の行程

- 08:45 豊後高田市役所正面玄関前 集合、受付
- 09:00 出発
- 09:20 大分県立歴史博物館着

### ・川部高森古墳群【国史跡】

赤塚古墳（古墳時代前期：3世紀末 前方後円墳 57.5m）

- 11:00 大分県立歴史博物館発
- 11:25 入津原丸山古墳着

### ・入津原丸山古墳【県史跡】（古墳時代中期：4～5世紀 帆立貝式古墳 77m）

- 11:45 入津原丸山古墳発
- 12:00 昼食：休憩
- 12:50 出発
- 13:00 真玉大塚古墳着

### ・真玉大塚古墳【市史跡】（古墳時代中期：5世紀後半 前方後円墳 100m）

- 13:25 真玉大塚古墳発
- 13:40 鑑堂着

### ・鑑堂古墳（詳細不明） 銅鏡【県有形】

- 14:00 鑑堂発
- 14:10 雷鬼の岩屋古墳

### ・雷鬼の岩屋古墳【市史跡】（古墳時代後期：6世紀後半 円墳）

- 14:30 雷鬼の岩屋古墳発
- 14:35 穴瀬横穴群着

### ・穴瀬横穴群【県史跡】（古墳時代後期：6世紀後半 横穴墓）

- 14:50 穴瀬横穴群発
- 15:00 佐野古墳・西田古墳着

### ・佐野古墳【市史跡】（古墳時代後期：6～7世紀）

・西田古墳（古墳時代後期：6世紀末 方墳 10m）

- 15:20 佐野古墳・西田古墳発
- 15:30 豊後高田市役所着

平成29年2月25日（土）

豊後高田市教育委員会

## 古墳とは？

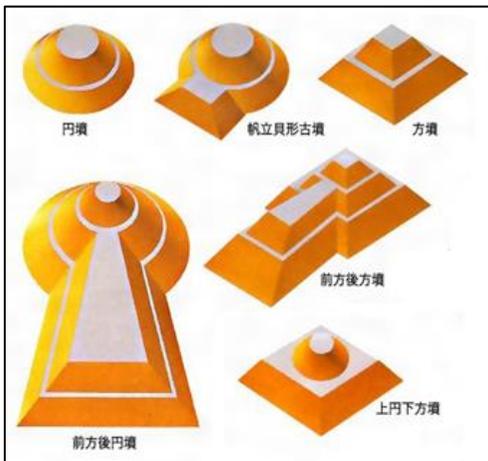
日本では3～7世紀にかけて造られた「権力者のお墓」を指します。その発生には諸説ありますが、弥生時代の権力者の墳丘墓が、巨大化・形式化したものと考えられています。

古墳には、円い円墳・四角い方墳など様々な形状のものがありますが、中でも**前方後円墳**は巨大なものが多く、権力の象徴とされました。また、東北地方から九州南部にまで同型の前方後円墳が見られることから、畿内を中心としたヤマト政権の誕生により、各地の大王がまとめられたと考えられています。

古墳の調査でよく発見されるのが**埴輪**です。人型（武人・鷹匠など）だけでなく、円筒埴輪・動物埴輪・家形埴輪・器財埴輪（農具・船など）などがあり、古墳の上部に並べられていました。また、**副葬品**として銅鏡・玉・武具（銅剣・銅鉾など）・馬具などが納められ、後期には石室内の装飾が流行しました。

大分県には数千基の古墳、50基ほどの前方後円墳が確認されており、「**豊の国**」の王（首長）や、**国前国造**・宇佐国造・大分国造・比多国造といった古代豪族達の墓とされています。

### ○色々な古墳の形



### ○副葬品の例（免ヶ平古墳）



## 九州で最も古い赤塚古墳 免ヶ平古墳の沢山の出土品

大分県立歴史博物館周辺には、120基もの古墳から構成される**大分県最大の古墳群「川部・高森古墳群」**があります（史跡公園「宇佐風土記の丘」としてよく知られています）。

3～6世紀にわたる非常に長い期間において古墳が造られており、全体として宇佐国造の一族の古墳だと推定されています。

中でも最も古い「**赤塚古墳**」は、3世紀末の築造とされ、**九州最古の前方後円墳**として知られています。全長は57.5mほどで、周囲には空堀をめぐらせています。副葬品として**三角縁神獣鏡**（椿井大塚山古墳【京都府】・石塚山古墳【福岡県】と同范）が発見されており、初期のヤマト政権から贈られた物と考えられています。



赤塚古墳



赤塚古墳出土銅鏡

4世紀後半に築造されたとされる**免ヶ平古墳**は、現在では円墳部しか残っていませんが、元来は全長約50mの前方後円墳であったと推測されています。

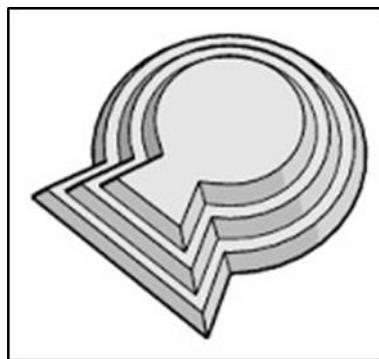
**副葬品**（p2に写真、国指定重要文化財）が多数出土しており、中央部の石室からは割竹形木棺・銅鏡・勾玉・鉄刀など、南側の箱式石棺からは若い女性の人骨と共に銅鏡・勾玉・管玉などが出土しています。



免ヶ平古墳

## 帆立貝式古墳って何だ？ 入津原丸山古墳

前方後円墳の中でも後方部分が小型のものを帆立貝式古墳と言います。ちょうど真上から見ると帆立貝のように見えることからそう名付けられました。古墳時代中期以降に見られ、「円墳に造り出し(祭壇)がつくもの」と「前方後円墳の前方部が矮小化したもの」があります。前方後円墳出現前の「<sup>まきむく</sup>纏向型前方後円墳」とは区別します。



豊後高田市には、北部九州で最大規模を誇る帆立貝式古墳「入津原丸山古墳」があります。墳長は70m程で、高さは10mと高く、円墳部は3段、造り出し部は2段になっています。二重周濠をめぐらせた巨大な姿は、地域を広くまとめた首長墓と理解できます。



入津原丸山古墳 (遠景)



二重周濠 (青色着色)

箱式石棺は記念碑に転用されており、副葬品として、仿製銅鏡・勾玉・鹿角製刀装具・短甲などがあり(現在は東京国立博物館蔵)、5世紀前半の武人的な性格を持つ首長が眠っていると考えられています。



(副葬品写真『豊後高田市史』より)

## 大分県で最大級の規模を誇る真玉大塚古墳

真玉大塚古墳は、5世紀中頃につくられた巨大な前方後円墳で、墳長は推定100m、二重周濠を含めると135mに及ぶ墓域を持っています。二重周濠を持つ前方後円墳は大分県では唯一で、干拓地を除けば殆ど海に面していることから、海を通してヤマト政権の影響を強く受けた人物が眠っていると考えられています。

宇佐・国東は先史時代より、九州における海上交通の要衝であったことが知られており、海上から古墳が見えるように造られたと考えられています。今は草木の繁る小山のような姿ですが、当時は白い葺石が葺かれていたと考えられており、海上からでも十分確認できました。



真玉大塚古墳の航空写真 (清水宗昭氏提供)

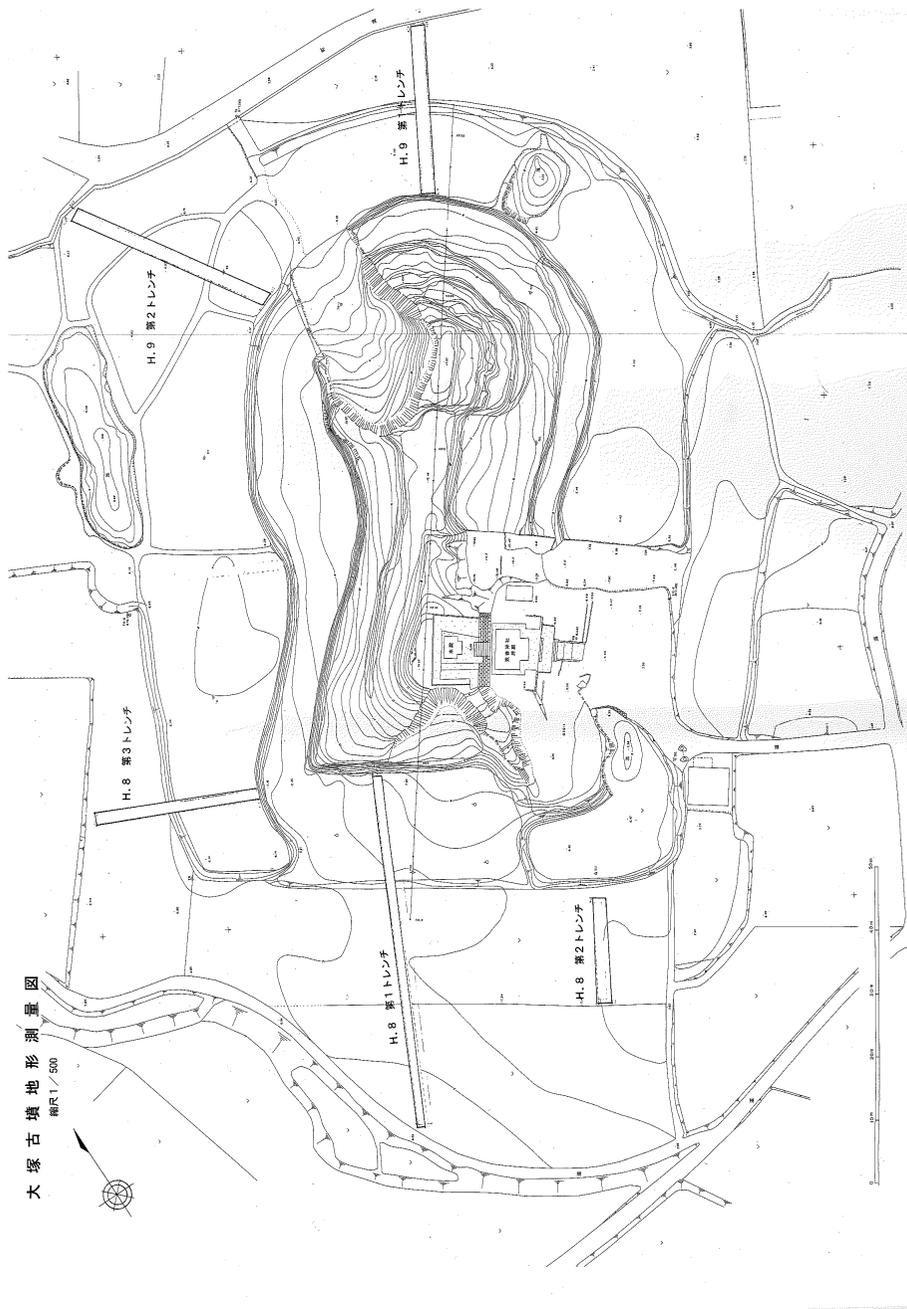
墳丘は神社の建築などの際に開削され、大幅に失われていることが悔やまれます。円筒埴輪の破片が多数発見されていますが、埋葬者のことが分かる副葬品は発見されていません。



当時のイメージ (亀塚古墳・大分市)



円筒埴輪は真玉中学校の教材に



大塚古墳地形測量図  
縮尺 1/500

## 豊の国の宝物「銅鏡」

黒松区の鑑堂は、江戸時代（明和5年【1768年】）に畑から出土した「銅鏡」を祀る小堂です。この銅鏡は直径 **20.9 cm**で、国内においても大型（20cm を超えると大型とされます）とされ、<sup>しんじん</sup>神人・車馬・竜・虎の図像を持つ画像鏡（扁平な浮き彫りをした漢代・画像石と類似した文様を持つ）です。

上質な白銅で造られた中国鏡（後漢）で、今でもしっかりと光を反射します。これほどの銅鏡をヤマト政権から譲り受けた首長がいたと考えると、現在は消失してしまった「鑑堂古墳」に眠っていた首長は、畿内ヤマト政権との関係を持ち、豊の国でも強い力を持った人物だったと推測されます。

銘文はスタンダードなものの中で、内容から古代の祭祀に使われたことがわかります。

銘文  
劉氏作竟四夷服  
多賀国家人民息  
胡虜殄威天下復  
風雨時節五穀熟  
長保二親得天力  
大吉利兮



櫛齒文      鋸齒文      雲氣文      三角縁



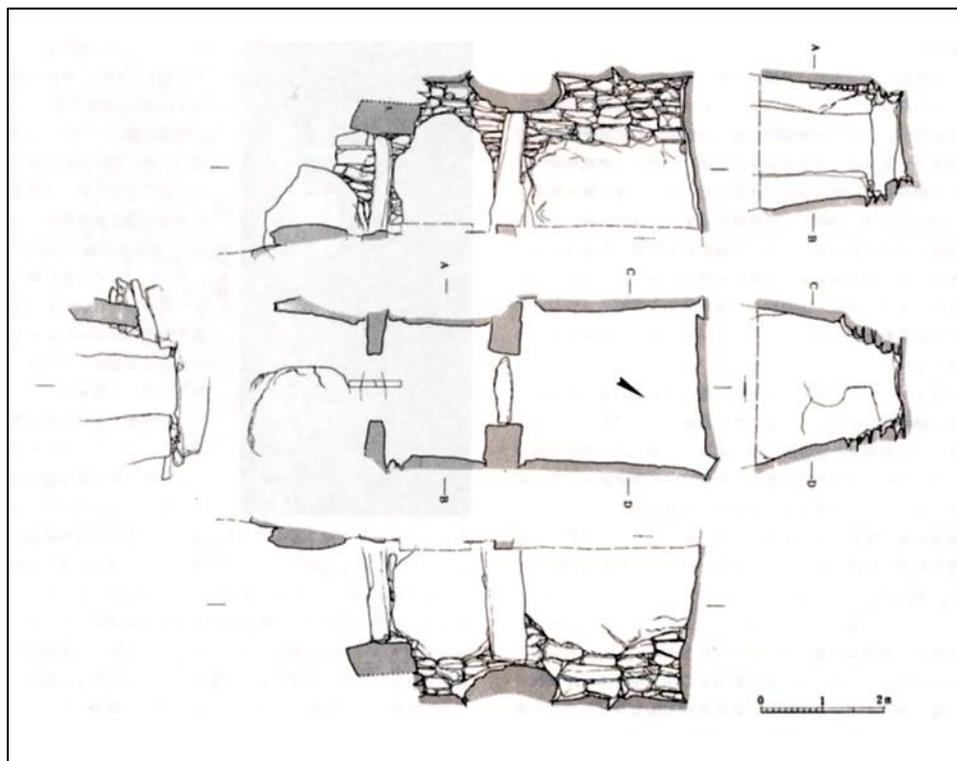
## 県下有数の大きさを誇る雷鬼の岩屋古墳の複式石室

美和～払田の丘陵地には横穴式石室をもつ古墳が多く存在したとされていますが、その殆どは何らかの理由で消滅しています。

その中で雷鬼の岩屋古墳は、県下有数の複式構造の横穴式石室を持つ古墳です。封土が削れて石室が露出しており、羨道部分が口を広げています。その様子を見た人々が「鬼が棲む」と噂したことから「鬼の岩屋古墳」と呼ばれていますが、6世紀頃の地域の有力者クラスの古墳と推定されています。

石室の全長は7.3mで、玄室は奥行き2.8m、幅2.4m、高さ2.4mとかなり大きく、玄室最深部の奥壁や腰石には巨大な一枚岩が使われています。

### ☆雷鬼の岩屋古墳の石室の図

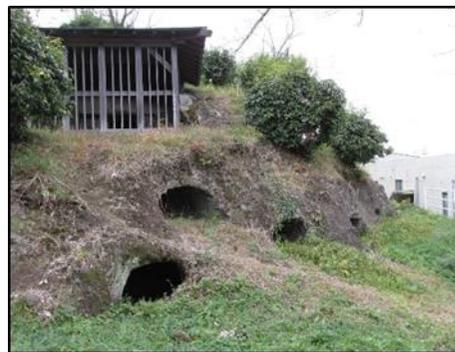


8

## 有力農民の墳墓のカタチ「穴瀬横穴群」

今まで首長墓・王の墓としての古墳を見てきましたが、6～7世紀になると「有力農民」も古墳を作り出すようになります。市内でも6～7世紀には小規模な石室・墳丘を持つ古墳や、凝灰岩質の崖面を掘削して「横穴墓」が造られるようになります。

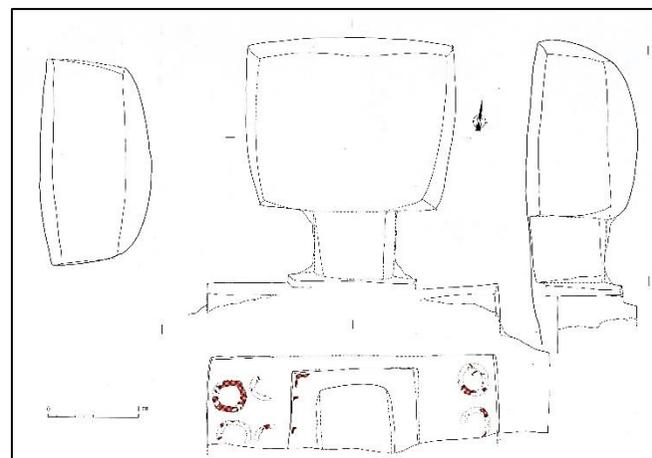
入り口はかなり狭いように見えますが、奥は広がっており、また天井はドーム状になっています。有力農民層の人々はより大きく、装飾のある横穴を造ってその実力を示したとされています。



四日市横穴群（宇佐市）



滝尾百穴横穴古墳群（大分市）



9

穴瀬横穴群にも、壁面を何段にも掘り込んだ羨道が見られ、赤色の顔料を用いて、全面を塗る装飾や、幾何学文様（同心円文など）の装飾画が見られます。

## 巨石を使った石室が露出した佐野古墳

終末期古墳になると造りが徐々に単純なものになってゆきます。中には古墳を覆う封土の抑えが十分でなく、長い年月をかけて徐々に崩れ、横穴式石室が露出する場合があります（奈良県明日香村の石舞台古墳が有名です）。



佐野古墳

河内小学校の中にある佐野古墳も同様の古墳で、河内地域に特有の板状に割れる石材を利用した石室がみられます。



石舞台古墳（奈良県明日香村）

6世紀後半、河内地区周辺をまとめた豪族の眠る姿が浮かび上がるようです。

## 発掘調査で発見された西田古墳

河内中学校にも古墳が残されている…とりたい所ですが、西田古墳は中学校裏手の水田の圃場整備に際する発掘調査で発見された古墳を移設したものです。雷鬼の岩屋古墳と同じ、複式の横穴石室が発見され、内部は敷石がしきつめられていたようです。



西田古墳

6世紀末の方墳で、その周囲には4～5m幅の堀状遺構も確認されました。



出土品（河内中学校内）

更に、古墳周辺からは大量の須恵器の破片が確認できました。これらを繋ぎ合わせると、右写真のような長頸壺と甕が復元できました。埋葬者に対する追悼の祭祀の跡と考えられます。

## 川部・高森古墳群【国史跡】

九州最古の前方後円墳として知られる赤塚古墳を中心に6基の前方後円墳、約120基の円墳・周溝墓が密集しています。赤塚古墳からは、京都・椿井大塚古墳など同范の三角縁神獣鏡が出土しています。

## 入津原丸山古墳【県史跡】

帆立貝式古墳としては北部九州最大級。箱式石棺が石碑に転用されています。馬蹄型の二重周濠がめぐらされ、埴輪や四獣鏡・勾玉・管玉・骨角器など多数の副葬品が発見されています。

## 真玉大塚古墳【市史跡】

県下2番目の大きさを持つ前方後円墳。墳墓の長さだけでも100メートルの規模を持ちます。墳丘の一部が神社造営などのために削られていますが、二重周濠の一部は今もなお水を湛えています。

## 鑑堂古墳（銅鏡【県有形】）

古墳自体は失われてしまいましたが、鑑堂と呼ばれる小堂に、江戸時代に出土した銅鏡が祀られています。劉氏作とあるように中国鏡で、豊の国の首長がヤマト政権との結びつきの中で得たと推測されています。



## 雷鬼の岩屋古墳【市史跡】

県下でも有数の複式の横穴石室（奥行き7m）を持つ円墳で、最深部の壁などには巨大な岩が使われています。周辺の大原鬼塚古墳では遺物が発見されており、周辺の有力者であったことが推定されています。



## 穴瀬横穴群【県史跡】

岩壁に2～4の段をつけて造られた凝った造りの横穴墓で、朱色の装飾文が見られることが県下でも珍しい。全てで19基あり、周辺の有力者などが埋葬されたと考えられています。



## 佐野古墳【市史跡】 西田古墳

河内小学校・中学校に所在した古墳で、現在は石室が露出しています。地域の小豪族の墓と考えられています。

